2017年12月3日(日) マルコ13:24-37

説教では「目を覚ましていなさい。」に集中してしまった感があるが、いま読み返していて「太陽は暗くなり、／月は光を放たず、星は空から落ち、／天体は揺り動かされる。」の部分が気になっている。　創造主なる神は太陽を無くしてしまうことすらおできになる方だと想像している。でも創造主が人類を愛してくださっているから、すくなくとも人類がこの地球上に存在している限り太陽が消えうせないと信じる。また創造主への感謝することの大切さを覚える。

2017年12月4日(月) 黙示録15:1－8

月曜、火曜と新約箇所は黙示録だが、そこに書いてある災いがどうのこうのと研究しておられる方々やレフトビハインドのような本を読み「ラプチャーが起きる」と思っている方もいる。ちなみに「ラプチャー」という単語は聖書のどこにも書かれていない。私は黙示的に書かれている文章からそのような考察をすることに興味を持っていない。なので「あなたは世の終末・イエスの再臨にどういう理解をしていますか？」などと聞かれ、私がどのように世の混乱や神の裁きの話をしてくれるのではと期待している方々には申し訳けないが、期待通りのお話はできない。黙示録から教えられることも、くりかえし私たちの想像や力をはるかに超えた大きな、豊かな神の憐れみ・愛に気づかされることにあると思う。

2017年12月7日(木)　ホセア6:1-6

「わたしが喜ぶのは愛であっていけにえではなく、神を知ることであって、焼き尽くす献げものではない。」　ここに聖書を通して、神が人類にわかってもらおうとしていることの真髄が見えるような気がする。神との愛なる関係が。。。

2017年12月10日(日) マルコ1:1-8

「福音の初め」という1節にある言葉、すばらしいグッドニュースは何からはじまっているかをよく考えると、「悔い改め」であると洗礼者ヨハネが、またこの福音書を記述したマルコが語っていることに大きな意味を感じる。　クリスマスを待つ、またイエスの再臨を覚える教会の暦にあって、四旬節と同じような心の備えをできますように。　ちなみに、四旬節は Great Lentという呼び方があり、この待降節のことを、Little Lentと呼ぶこともある。